

(付表 1)	ねらい	支援内容
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康状態の維持・改善</li> <li>○基本的な生活スキルの獲得</li> <li>○生活のリズムや生活習慣の形成</li> </ul>	<p>健康状態の把握</p> <p>自ら健康で安全な生活を作り出せることを支援する。学校や自宅へお迎えに行った際には、職員の先生や保護者に体調の変化がないか確認を行います。健康状態のチェック。来所してすぐに検温を行います。意思表示が困難な子どものサインに気付ける様にきめ細やかな観察を行う。</p> <p>健康の増進</p> <p>食事・排泄等の基本的な生活リズムを身につける支援。区切りや見通しを立て、長時間トイレに行けそうにない場合は事前に事業所で済ませられる様にする。食を営む力の育成と楽しい食事への配慮。学校が休みの日は自身で食べる物を選び購入する。病気の予防や安全への配慮。手洗いの徹底。</p> <p>基本的な生活スキルの獲得</p> <p>身の回りを清潔にし、食事や衣類の着脱等生活に必要な基本的な技能を獲得できるように支援する。脱いだ靴を下駄箱に入れる等、マナーも身につけていく。</p>
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>○姿勢と運動・動作の向上</li> <li>○保有する感覚の統合的な活用</li> </ul>	<p>姿勢と運動・動作の基本的技能の向上</p> <p>姿勢保持・運動・動作の改善及び習得。テーブルで学習や作業をする際、極端な姿勢にならないように配慮。長時間同じ姿勢になってしまう場合は、適度に軽い運動を挟む。筋力の維持・強化。事業所の近所に4か所程公園があるので活動に合わせて利用。</p> <p>保有する感覚の活用・特性への対応</p> <p>視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用できるよう遊びを通して支援。段ボールや手でちぎれるガムテープを使って大型の工作を行う。屋外では学校で使用しているボールと同じ物を用意し、ドッジボールやサッカーを行う。感覚や認知の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援。大きな音が苦手だったり、人との接触を苦手とする子どもに対してはそれぞれに合った配慮を行う。イヤーマフや補聴器等、日常的に使用が出来る様にしていく。</p>
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○認知の発達と行動の習得</li> <li>○空間・時間・数等の概念形成の習得</li> <li>○対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得</li> </ul>	<p>感覚や認知の活用・知覚から行動への認知過程の発達</p> <p>視覚・聴覚等感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能への発達を促す支援を行う。環境から情報を取得する。公園で遊ぶ時等、草木に直接触って体験する。あまりにも危険なもの以外は触れる事を止めたりしない。</p> <p>認知や行動の手掛かりとなる概念の形成・数量や大小・色等の習得</p> <p>物や空間・時間等の概念の形成を図る。工作やマイクラフト等、空間認知を高めるために取り入れている。何がどれくらい必要でどんな色で表現するかを一纏に考えていく。時間も逆算して活動の中であとどれくらいでこまでできるかを考えながら取り組む。</p> <p>認知の偏りへの対応</p> <p>個々の特性に配慮し、入って来る情報を適切に処理が出来る様に支援。こだわりに対しても理解を示す。対象者が苦手と感じるものは無理に触れたり、使ったりしない。あるものの中から本人が納得出来る様にしていく。</p>
言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>○言語の形成と活用</li> <li>○コミュニケーションの基礎的能力の向上</li> <li>○言語の受容及び表出</li> </ul>	<p>言語の形成と活用</p> <p>言語の習得。自発的な発生を促す支援。会話でのやり取りが主なコミュニケーションツールになっている為、会話がとても重要になってくる。実践的な環境の中で習得を促していく。現時点ではイラストカード等の活用はしていないが、必要があれば追加で作成していくことも検討中。</p> <p>人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得</p> <p>それぞれ配慮された場面での人との相互作用を通して、コミュニケーション能力向上の支援。言葉遣いも併せて支援。大人に対しての敬語や子ども同士でも乱暴な言い方にならないように配慮。ニックネームは双方に信頼関係があれば使用できる。</p> <p>受容言語と表出言語の支援</p> <p>言葉や文字を使って相手の意図を理解(受容)。自分の考えを伝える(表出)を支援。相手が伝えたい事がある時は最後まで話しを聞くように促す。話しを途中で遮らないようにする。子ども同士で会話が上手く成立していない時は職員が助け舟を出せる様に話しをよく聞いておく。</p>
人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他者との関わり(人間関係)の形成</li> <li>○自己の理解と行動への調整</li> <li>○仲間づくりと集団への参加</li> </ul>	<p>模倣行動の支援</p> <p>遊びを通して人の動きを模倣することで、社会性や対人関係の芽生えを支援。言葉遣いもそのうちの一つ。相手が目の前にいる環境の中でどんな言葉遣いがいいのかを身につけていく。その発展として何を模倣されると嫌なのかも身につけられる様にしていく。</p> <p>自己の理解とコントロールの為の支援</p> <p>出来る事と出来ない事、自身の行動の特徴を理解し、気持ちや情動の調整が出来る様に支援。得意な事はより伸ばせる様に環境を整えていく。出来ない事をがんばってやるよりも、出来る事を伸ばす事で全体の底上げにつながるかと考えている。</p> <p>集団への参加への支援</p> <p>集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加出来るように支援。簡単なルールを設け、みんなで楽しめる遊びを取り入れている。自宅でも出来る一人で出来る遊びはできるだけしないようにしている。</p>

附 則

この規程は、平成31年1月1日から施行する。

この規程は、令和6年4月1日から施行する